

# HopStepJump 5

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

## 人権について考える①

—学級づくりと自尊感情ついて—

### あーよかったな 先生になって ～「つながりと感動」、そして「笑顔」～

初任者研修・新規採用者研修第4回はWeb開催（ライブ配信型）で実施しました。講義は、西宮市で教員や指導主事を経験され、現在は教育サポーターとして活躍されている仲島正教先生に動画で講義をおこなっていただきました。子どもとの関わり方や温かいつながりについて数々のエピソードと共に、仲島先生のこれまでの実践をもとに人権教育を基盤とした集団づくりについてお話していただきました。また、講義をもとに受講者同士がZoomを活用して交流をすることができました。（以下は振り返りシートからの抜粋です。）

思えば、日ごろの私は、授業を進めていくことに必死で、「かまぼこ先生」になっていました。教室にはしっかり授業を受けようとする子がいる反面、教科書を開かなかったり、授業に前向きに参加しなかつたりする児童がいます。かまぼこをやめて、子どもたちのもとへ行き、きちんとみんなのことを見ているというメッセージを送り続けることが大切だと気付かされました。

担任をしている自分の2か月を振り返ってみると、実際に子どもたちの前に立って、指示して、その通りに動かない子どもに注目してしまうことばかりだったように感じます。そのため、仲島先生の「教育とは足でかせぐものだ、集合の時でも1番遅く来る子のもとには、自分で近づき1番にする。」という言葉がすごく印象に残りました。講義の次の日から、子どもたちと関わる時に、自分から近づくこと、繋がることを意識し行動してみました。すると、すごく些細なことではありましたが、そばにいくと子どもたちの様子が分かり、その子どもたちに声をかけると子どもたちの行動が変わるということを実感することができました。

教育＝共育という考え方が一番考えさせられました。「教え合う」活動を授業の中に組み込もうとすると、自分の中で「騒がしくなってしまうのではないかと考えてしまい、自分が教え込んでしまっていました。子どもたちが教え合うことで、「自分たち」という集団を意識するようになり、困っている子に声をかけたりする優しさを発揮したり、また教えてもらった子は、またちがう誰かが困っているときに助けようとしたりする「社会性」や「自己有用感」をそこで獲得していくのが、集団作りの基本であることを今回学ぶことができました。

学級では、学級目標を立て、教室後方の黒板に掲示したところでした。自分たちで学級目標を「決める」ことが大切なのではなく、学級全員でその目標を「日々大切にできているか」を考えた学級経営を行っていく必要があると強く思いました。毎日の小さな変化や子どもの発言も、学級目標とのつながりを意識させ、学級目標にかえていくような指導をしようと思います。

仲島先生の「人権を学ぶとは、人と人との温かいつながりを感じる」という言葉を聞いて、そこまで難しい取り組みをしなくても、毎日の小さい場面で人権について考えられる機会が多くあるのだと気付きました。今の学級でもクラスに少し馴染めていない子がいるため、どのような授業を行えばその子が活躍できるのか考えていました。しかし、授業だけでなく、休み時間にみんなで遊ぶ時間を作ることや、授業前の小さな一声でも、人との温かいつながりが築けることを知り、すぐに実践してみようと思いました。

私は昼休みに生徒とバレーボールをしています。仲島先生の講義で、上手に教えたりできなくても子どもと遊びなさい、ということを知り、生徒と楽しみながらかわれ、自分のリフレッシュの時間にもなっている昼休みの時間を改めて大切にしようと思いました。仲島先生が最後におっしゃられた「ひとりで頑張りすぎない、助けてもらう」という言葉が印象に残りました。とても前向きになれたので、武器である若さを活かして色々なことに挑戦したいと思いました。

動画越しにでも先生の熱気が伝わってくるような熱いお話でした。卒業後にも児童と関わりをもち、その活躍に一喜一憂される姿に教員のめざすべき姿を感じました。全てを模倣することは難しいですが、吸収できることは吸収していきたいと感じました。

研修において、自分の現状やこれからと結びつけながら「学び取る」という意識が大切です。

「仲島先生だからできること」ではなく、子どもの可能性を引き出し、成長を支え、喜び合う姿は時代や目の前の子どもが変わっても誰もが大切にしたいことですね！

振り返りシートには、「これまでの自分」、「今の自分」についての記述が多く見られました。1学期が終わる頃には4月当初と比べると確実に分かること・できることが増えてきているはずですが、その反面、分かってきたからこそ悩むことや気になることも増えたのではないのでしょうか。主体的な研修受講とは、まずは自分の課題を見つめることから始まります。課題は決してマイナスの意味ではありません。めざしている姿にむかうまでに直面する課題を克服するためのヒントやきっかけを研修から学び取ってください。毎回の研修のテーマに対して、「こうしたい!」「こうなったらいい!」といった思いや願い(課題意識)をつかむことで、講義の内容や初任者同士の交流がより充実したものになります。

学校になじめないことで否定的な言動をとってしまう子どもは、その言動とは反対で先生など周りの大人の人にかまってほしい気持ちが強くあると分かりました。普段そのような子どもにはできるだけ積極的にかかわるように心がけているのですが、やはり否定的な言動をとられた時には少し距離をとってしまっていたと反省しました。これからは子どもにどれだけ否定的な言動をとられたとしても、あきらめずに積極的に関わっていくことで子どもとの信頼関係を築いていきたいです。

私は事務職員なので、日頃から密に子どもと接している教員とは違い、子どもとの間に距離感があると感じています。しかし、「心の距離感を実際の距離感に比例する」という講義の中での言葉から、自分から子どもへ近づいていくことが大事だということを学びました。今後、積極的に自分から動いて子どもとのつながりを作っていきたいと思います。また、子どもに対してだけでなく教員や周囲の人間に対して「見えないものを想像できる力」や「人の痛みを感じる心」を常に持ち、優しさを与えられる人間になることで、繋がりが強まり、よりよい職場環境を形成することにも繋がると感じました。

担任をしている教室の中も、「優しい」を増やしていけるような取り組みをしていきたいと感じました。また、職員室でも同様に「優しい」が溢れると、教職員同士のつながりも強くなり、教職員の仲が生徒にも反映されていくのだと思います。

この4月から担任として過ごしていく中で、何度もしんどいなと思うことがありました。本当に教師としてやっていくのだろうかとも考えたりしながら過ごしていた時に、クラスの児童から「いつもありがとう」と手紙を渡され、思わず涙がこぼれそうになることがありました。その時に、本当にこの仕事をしていて良かったと思うことができ、自分がこの仕事を選んだことに誇りが持てました。まだまだ、自分自身は未熟だとは思いますが、改めてどうして教師になったのかを胸に抱きながら、明日からも子どもたちとの時間を大切にしていきたいと思いました。

まさに今、採用試験シーズンですので、みなさんも去年の今頃を思い返して、初心を忘れることなく子どもたちと向き合ってください。  
「言葉に支えられ、言葉で支える」、先生っていい仕事ですね☆☆☆



今回もZoomを活用した研修実施となり、前回と同様「ブレイクアウトルーム」での交流をおこないました。やりづらさは少なからずあったかと思いますが、慣れやグループごとの工夫、お互いの心意気でカバーしていただき、有意義な時間となりました。「時間が短かった」という感想もありましたが、それは前向きな意見として捉え、ぜひ今後も積極的な交流時間を受講者同士でつくっていきましょう!

グループワークを通して様々な人と交流することができました。小学校教員の方が3人で、中学校とは現場の様子や、講義の中で着目するポイントが違って面白かったです。どの人も分からないことがあればすぐに聞くということは一致していました。

初任者同士の交流ではいい刺激をもらえました。ほかのメンバーは小学校の教員でしたが、児童生徒と向き合う上での基盤は同じだと思うので、同じ初任者の立場で抱える悩みを聞くことでそれぞれの対応を共有することができ、仕事に向き合う姿勢としてもよい時間となりました。

いよいよコラボ研修です!豊能地区としての参集による研修実施は、第1回(4月5日)以来ですね。同期とのこれまでの成果や課題を交流したり、授業づくりについての助言を10年経験者から受けたりして、充実したコラボ研修になることを願っています。研修で学び取ったこと今後に活かしましょう!!

